

「いろはワーク」と和学「いのち」論形成

まどか 庸 代 (南山短期大学助教授)
いのちとことば板書録 佐々木 晴 代 (人間関係科25期)

はじめに

日本における生命科学の方法論を実践的に探究している。

生命科学の誕生が 科学観の発想転換をせまる新しい学際領域で在ること (*1990上智大学生命科学研究所紀要9号)、分子生物学による生命科学の台頭が「人間の生命」の学問と倫理の革新をもたらすある種の価値観転換を研究者や社会に問いかけていることはすでに論考した (*1985南山大学社会倫理研究所生命倫理研究会にて発表)。

「いのち」という和語とそのことばのもつ身体性に着目した体験学習法による生命科学論もしくは生命論プログラム開発の実践的試みを開始していることを報告した (*1997南山短大紀要24号)。

その後1996 1997 1998 世紀末のいのち論のホリスティックな統合性をめざすプログラムを探求する途で、「いろはワーク」を創作した。人間関係各論「いのちとことば」を 体験学習 laboratory method の発想法による生命論ワークや LIFE SCIENCE & LIFE FANTAZY の生命科学論 (生命と論理)、日本語による学問形成のあり方の方法等の文脈の中で、プログラム開発を施行した。

日本人の身体性・心情・風俗習慣・気持ちに沿った医療医者教育の必要を日本人のからだからの本音、ことば、思い、日本人の体のサイズに合った LIFE style (医療システム) 生命医療科学技術及び生命社会のインフラストラクチャー (生命的社会資本づくり) を展望していく。

生命論は（生命科学の「科」をとることに意味がもたらされている）自己統合学であり、自己生命総合化力である。「いきる」「ちから」を問われる。その営みの中で科学の方法論の再構築が試みられ、時代の要請の意識化や価値観の再構築再創造が期待される。さらに 生命論を日本の平仮名による訓読みの和語「いのち論」logics of inochi, study of inochiと称することにより、日本語・和語を意識化した和学 japonologie 日本人の音感 身体性霊性をも意識した学問形成を目指している。

日本人の身体にあった生命科学医学倫理のあり方を探る過程で、日本の「いのち」ということばと「いろは歌」の音の意味を探るに至っている。文化と生命倫理の関係についてはすでに指摘され論考されている（J. マシア）。

【いろはワークとは

「いろは」の歴史と「い」「の」「ち」の語勢

いろはワークは 人間関係科の専門科目各論「いのちとことば」で創作した。〈いろはワーク〉（1993）人間関係科各論「いのち と ことば」より。読者は、一度ご自分のいきでゆっくり声を出して詠んで下さい。

いろはにほへと
ちりぬるを
わかよたれそ
つねならむ
うゑのおくやま
けふこえて
あさきゆめみし
ゑいもせずん

「いのちとことば」においては life scienceとlife fantasyという二本柱で生命の要素還元的分析的論理体系的研究領域と生命の体験的自己内論理学習研究領域とを区分しつつ 自分なりに人間の生命の学問のあり方を試行錯誤している。日本人の言語文化に根ざした学問形成、日本人の身体のサイズやものの感じ方考え方のスケールにみあったライフスタイルの形成、日本人の生命医療（者）・先端医科学技術（者）や医学（者）教育システムや生死の過ごし方・いのちの研究学び方を学校社会においてはカリキュラムとして、または研究者や医療現場に直接携わる人々との出会いにおいては緊急課題研究会として「いのちとことば」のテーマを探究している。

カリキュラムの「いのちとことば」は実習で構成している。知識教育よりは
智恵と呼ばれる視点のもの、LIFE SCIENCE に対してLIFE FANTASYを強調
したものであることは既に報告した（南山短期大学紀要24号1997）

そこでオリジナルに試みている Life fantasy work のひとつを「いろは
ワーク」と名付けた。

<いろはワークの方法>

1. 絨毯敷きの床 または(たたみ敷き、和室などゆったりと一人一人のス
ペースの取れる空間で、自分の居心地のよさそうな場所に座る。
2. 各自、呼吸を整え、目を軽く閉じ、姿勢を楽に整え 背筋は伸ばし 発
声し易い居ずまいとする。
3. 予め配布した資料を正面 膝元に置き、軽く眼を開いて半眠しつつ、い
ろは唄を一度自分のリズムで詠む。
4. しばし間をおいて、目を閉じて「いー」と一音ずつ発声し その発声中
にその音でイメージする同音の漢字、感じる色調、を記録する。同時に自
身のからだのどの部分にその音が一番感じやすいかを体の地図用紙に記録
する。イメージが浮かぶまで同じ音の発声をしつづける。
5. 続いて、「ろー」とゆっくり次の音の発声をし、同様の作業をし、「んー」
まで行う。必要におおじて休憩を入れる。

(注) 音を発して約一時間から2時間一人で過ごす。が 身体的には呼吸が楽
になる。眠くなったり 周りと協働でして居る関係か 一種の酸素不足
で 室内の場合は空気の入替えや換気、休憩をとるよう配慮する。

<「いのちとことば」 板書ことば録 佐々木晴代>

いろはワークは「いのちとことば」の中で生まれ培われたものである。その
ほかのワークやその発想の中で展開された生命論については一つ一つ論考を暖
めるべく、[一枚一枚のその場とそのときに生まれたことばの「板書録」とし
て資料がまとめられた。

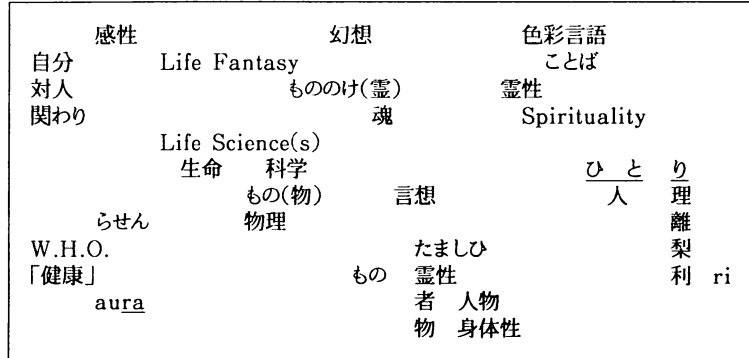
板書録 黒板に生まれたことば思惟イメージを残す という考えは、シュタ
イナーの「黒板絵の世界」及びその黒板絵展（1998）からヒントを得た。

黒板はひとつの生命的宇宙であり、そこに立ち現われる（大森荘三）思惟思
索 思想 幻想 言相 言語言葉が ことばの層として表現され、「地面の土
ならぬ教室空間の板面に書き記され遺された生命意識の痕跡」でもある。一枚
一枚板書の考察とそのワーク方法ひとつオリジナルなものなので、別の稿で熟
慮する予定であるが、「いろはワーク」はその一枚であることをここでは強調
するに留める。

いのち と ことば

第一回 四月八日

《テーマ》 Life Fantasy と Life Science



《その解説》

Keyword : 感性 げんそう もの 霊性 色彩言語

生命幻想 (Life Fantasy) は自分に対する感性、人に対する感性、そして関わりに対する感性など、ひとが何かに対して目には見えないものを感じる感覚何を感じるのか、それはそのものに宿る (残る) 気、気配、もののけ、あるいは霊、たましひと呼ばれるもの。もののけは日本的な感性として、古来からひとびとが感じてきたもの。

生命科学 (Life sciences) はもの (物)、物理、物の理であり、言想つまりことばや形として表わされる。DNAのらせん構造。

「もの」には様々あり、たましひ、霊性、者 (人物)、物 (身体性) など。「もの」とは形あるものだけでなく、何かの気配、その何かわからないものを表わしたりもする。

W.H.O. 世界保健機構による健康の定義1999.5 Spirituality を加える。

「ひとり」ということばの音に宿る意味は？

色彩言語 Aura Soma ことばを消す

「いのち」身体的 physical 精神的 mental 社会的 social

+ 霊的 spiritual バランス・和をもつ力を養う

虹の色ひとつひとつと関わる その色と関わる、話しかける、対話するその色のかみを手にとり、fantasy (想) を語ってみる 声に出して最後に関わった色は？

カラーボトルを五本選ぶ その中でいちばん気に入ったのは？

そのボトルをからだに近付けてみる からだのまわりをめぐるせてみる ぴたりとくるところは？ ひたい のど むね・・・

いのち と ことば

第二回 四月十五日

《テーマ》 AURA-SOMA

第六感 直感
わたしの息 わたしの歴史が手伝ってくれる

《その解説》

Keyword : 第六感 直感

カラーボトル ものでありながら spiritual なかわりをする

自分の spiritual なところでかわりをもつ

AURA すべての人々の周りを包んでいる、その人それぞれの色の層 [光]

SOMA ギリシャ語で身体のこと [Being] をも意味する

サンスクリット語では Living Energy

AURA-SOMA はわたしたちの存在全体を癒していく

自分に出会うという知によって。

カラーボトル (バランスオイル) を四本選ぶ

一番目 : そのひとの本質 そのもの

二番目 : そのひとの過去 太古の昔

三番目 : そのひとの今

四番目 : そのひとの未来 チャレンジ

それぞれのボトルとの出会いをメモする

想ひをかく

いのち と ことば

第三回 五月六日

《テーマ》 いき の いろ

《その解説》

Keyword : チャクラ いき

身体図面に倣って座していきと音声を発し各位置のいろのイメージを描く

どの部分からのいきが出やすかったか

どの部分からのいきが出にくかったか

どんな気持ちだったか セッション中に感じたことを書いておく

いのち と ことば

第四回 五月十三日

《テーマ》 Life Fantasy

Life Fantasy	幻想	ヒント	ひらめき	閃	自己知
	まぼろし	メッセージ	声	音(本音)	science
			単音	ほんね	英知
神のおもひ		わたしのことば		ほんとうの音	学問
ヨハネ「はじめに	ことばありき」	まことのことば			新しい知恵を
イエスは	みことばであった				遺産にする
		神のおもひがイエスの	ことばになった		note
からだ	目に見える		色		・知性
↓					・霊性
色	即是空	音-色-体	いろは		intelligence
空	即是色		日本で昔から	つかわれていた音	spiritual
無	— 有	曖昧さ			・感性
般若心経	経	宗教が護ってきた	→(分)科学(11世紀キリスト教世界で)		logos
			医学 法学 神学		sense
命	こころ←空間	たて	よこ	おくゆき	
↑		m	m'	m'	三次元
時間			m'	m' . . . m' . . . ∞	
				様々な方向ベクトルが	向けられる
時間軸を変えること					
	過去をおもう				
	未来(～なったらいいな)におもいをはせる				

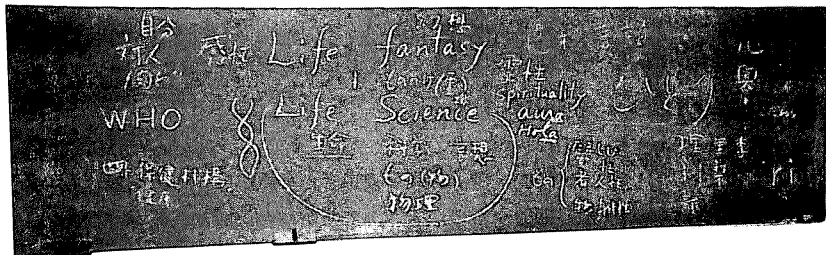
《その解説》

Keyword : 自己知 ことば 音 いろは 時間・空間

ヒントやメッセージは目には見えない「幻想」まぼろし ひらめきやほんとうの音(本音)がある。わたしの ことば まことの ことば。自分を知っていくなかで生まれてきた新しい知恵を遺産にする。

「色」は昔、「身体」(目に見えるもの)を意味していた。身体から出る音日本で昔からつかわれていた「音」いろは 齋-色-儺 のつながり

「今ここ」という時間・空間から様々な方向ベクトルの向きを変えることができる。過去の自分を知る 未来の自分を知る 今の永遠を生きる いき



いのち と ことば

第五回 五月二十日

《テーマ》 たましひ いろ
たましひのイメージは？

《その解説》

Keyword : いろ

〇リングテスト(太田)により、その時の自分の「たましひ いろ」を知る

南山教会の周りでペアになり、紫 ローズ 青 黄金 緑 橙 赤 の七色について〇リングテストを試みる。親指と人指指の筋力 リングの強さで順番をつける。

いのち と ことば

第六回 五月二十七日

《テーマ》 つき ひ わたしの中でうごめいた像を描く image

なめーたー nm 波長	人 hu-man いろいろ 音波	色彩言語	あり様が表そうとしているもの 在り方 あり様 本音 本もの 自身 imageでみる	 言語 つきひ 感情(喜怒哀楽) かみの上に noteする あらわしてみる
1930s' ハイデッガー アインシュタイン 物 分子-原子=電子- 陽子+ 素粒子		物理	粒子性 波動性 ファジー	

《その解説》

Keyword : 在り方 喜怒哀楽 image

思考することを一度始めるとなかなか止まらない。思考が思考に絡まる。

思考したことを、そのまま再現(体现)することはできない。

かみ(白い和紙巻: 部屋に拡げ fantasy notebook の象徴)の上に足を着けてみて初めて、体から出てくるものを喜怒哀楽のテーマの紙上でそのまま表わす。どれだけ本物でいられるか、どれだけ本物でいあうか。「つき」「ひ」と一体化して発音する。

自分を表わさないことの安心は、いつか相手への猜疑に変わりはないだろうか。そういう不安。一時のみせかけの安心は容易に不安に変わる。

それぞれの形 image 感情を想起させる fantasy が、まず一人ひとりにある。

かみの上にその意識を note する(非言語的 見えない形)

わたしの中でうごめいた image を描く

いのち と ことば

第七回 六月十日

《テーマ》 つき ひ

つきとひをからだ全体と一体となった発声であらわす

つ き ひ	昼 夜
平仮名 かなの音=人間性	日中 夕
波 本質	自分自身の宇宙
気 いのち	(小宇宙)
自分	
日本人のかたち	内なる音 ことば
(からだ)	自分のからだ覚えている
ひとつのからだを生きていく	
和語 大和語	
からだから出ていることば	
安 漢字 漢という国	
ア あ があっての漢字	

《その解説》

Keyword : 自分の中の「ひ」のちから「つき」のちから

自分の中にある「ひ」 火 熱 あたたかさ 光 昼

自分の中にある「つき」 月 女性性 周期 神秘 夜

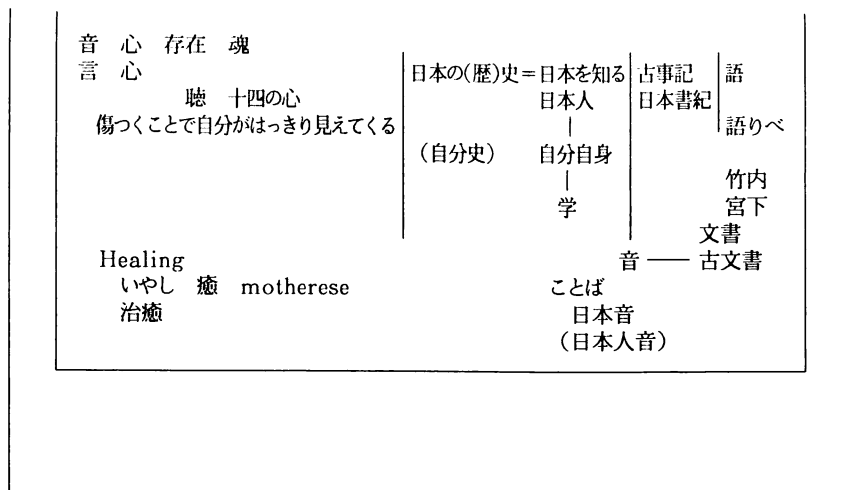
わたしは「ひ」から何をいただいたのか 「つき」から何を受け継いだのか からだが覚えているちからを わたしの中の宇宙を全身をのせた白い和紙の上に表わしてみる。

いのち と ことば

第八回 六月十七日

《テーマ》

技術 Techno Art	芸術
科学 Science Art	
Life Science	Life Fantasy
論理	image
ひと 倫理	概念 ← 幻
↓	concept
文化 文明になっていく	自分 自文化
肉声 文字	本音を捜す
	Science
主 す	Silence
秘儀	existence
	自分のいのちの秘儀をさぐっていく



いのち と ことば

第九回 六月二十四日

《テーマ》 音のことば

<p>音のことば いのち たましひ</p>	<p>色彩言語 ふる里 スーザン・オズボーン the earth is my home</p>
	<p>おうち</p>

《その解説》

Keyword : 音のことば ふるさと

いのち 見えないもの 自分で管理していくこと

言語 ことば

音もまた原初的なことば その人が語っていることば 声
語っている人そのままだ言語となる

いのち と ことば

第十回 七月一日

《テーマ》 大いなる自己への旅

イメージの旅を全身横たわってファンタジワークで行い、話す
水のイメージ 水から離れて森の中へ 動物に出会い、贈り物をもらおうそれは何?
もう少し歩いていくと誰かに出会う それはだれ?
色 音 光 声 ことば …… すべての幻想と言想の明確化

Ⅱ 「いろは」一音一音への気づき から 「い」「の」「ち」ということばの論考へ

<いろはワーク実施結果の一覧表>

人間関係科いのちとことば受講生98生の記録

資料作成:

91生 松本道子 安田昌代

96生 石田玉子

97生 佐々木晴代

98生 原田亜希子 千賀聡子 梅田千愛 横地満由美

表Ⅰ.いろはの響きの中で イメージとつながった漢字(当て字)

表Ⅱ.いろは音の響き や 息呼吸しつつイメージとなった色調(スペクトル)

表Ⅲ.比較のためにいろは音は からだのどこに一番感じたか

表Ⅳ.(音)比較のために インド瞑想の音(ヨーガ)

表Ⅴ.(色)比較のために 虹色とからだ(aura soma)存在の色彩言語

表Ⅵ.集中する色 緩和する色(O-ring test)による(ワーク「たましいのいろ」より)

まず 日本人が日本語をことばでからだから発する場合日本語の音は
ほぼあいうえお50音 または いろは48音からなる。

日本人の思いことば行いの元となる声。本音。いのちの本音の響き、心の本音。
行動の本音。

生命の学問の文化性 つまり日本語を話す人のからだに合った学問形成 医療
看護のあり方さぐるべく、一人一人の色は音に対する感性の表現である。作業
ワークで企画した。

日本人のことばを、自分自身のからだからの「音 本音 声」として聴くワー
ク。もともとは「いのち」という和語のもつ意味が その言葉のもつ音からど
の様に伝わって来るかを各人が捉えることで、いのちの本質にふれることを意
図した。人間の生命の学のあり方を、大学教育研究機関で模索する中で、日
本語の「いのち」、平かな言葉で気づいていく知識のあり方、ものの知り方の
効用に筆者なりに出合った。生命科学を分子生物学として英語で学んだ筆者と
しては「日本人の生命」を西欧型現代科学技術のみに委ねてしまいがちな日本
国家のまたは日本人の傾向に危具があった。生活様式は西洋より西洋化してい
るし便利優先の社会や人間関係が成立しやすくなっている。

表 I

い 伊胃胃以困胃伊居異胃伊伊居意今
 ろ 呂呂露盧呂路露路呂露長呂呂
 は 葉齒葉羽波齒波葉葉刃葉派葉刃端
 に 二似似似煮二似似仁似似二似仁似
 ほ 保穂保保保ホ保補方穂惚穂穂放穂穂
 へ 平平屁部部戸経屁部恵屁変
 と 戸戸達戸戸戸遠止十戸戸戸徒十
 ち 知血地千血地血血地治千血血血地地
 り 里理離り里理理離理理里理離理凜
 ぬ 漏奴塗縫布沼塗沼濡沼濡沼縫
 る 流留留留ル留留瑠留留留字留璃流
 を 御吠尾尾尾尾ヲ尾尾男雄

わ 和我輪和和輪輪輪若和輪輪輪和輪沸
 か 歌蚊可加華蚊香家火化母歌可火果河可加
 よ 世世余夜余世余世用世世代世予世世代
 た 田田田田他田多他退田多多田多他多
 れ 零礼礼例靈礼礼蓮冷烈礼礼令零
 そ 祖双粗沿空空訴想疎素礎素祖曾
 つ 津津津津津鶴月積ヲ津津伝津津
 ね 根根根根念寝根根根根寧根根寝寝根
 な 名奈奈奈奈奈名奈奈奈菜奈奈流菜菜
 ら 蘭楽羅羅良良良羅羅ラ良良ラ良楽
 む 無夢無無無夢無結無無無無無結群無

う 有歌字宇卯字鷓海有宇浮字受有宇
 ゐ 井為意伊胃井江困井井伊戌為亥
 の 濃乃野野野野野乃野伸野野野野乃
 お 尾大奥御尾尾尾奥織御尾尾尾尾男尾
 く 九空苦苦苦九久区久久久苦苦九悔苦
 や 矢矢矢矢屋矢矢矢矢矢矢矢野矢矢
 ま 摩摩麻磨麻麻間魔麻間真間間馬魔
 け 毛毛毛毛嫌毛景毛毛毛毛毛今毛
 ふ 布不不付風太風風布風布布日風風不
 こ 子孤子子声子子孔古来子古子越孤
 え 得映得絵絵絵江絵江江絵恵ゑ絵絵
 て 手手手手手手手手手手手手手手手

あ 暗亜亜亜浅麻亜明亜阿阿唾会亜悪赤唾
 さ 查笹沙砂早沙差沙佐砂差左差砂沙
 き 木気木希黄木木木木木嫌木木木城希木
 ゆ 由弓温由湯由湯由由由湯湯湯夢由
 め 目芽目芽愛目芽目目目目目目女
 み 味見実実見実身耳美身見実身見三
 し 詩死白四志死詩詩死屍死死詩知師
 ゑ 絵越絵絵得恵得映絵江恵エ
 ひ 医日火日火陽比火火日火秘火火井火非
 も 百燃萌藻者茂森模藻燃尾紫茂藻
 せ 背背背背世背世聖世背背背背瀬背
 す 須酢素素須酢酢透素滑素鈴酢吸酢
 ん 運雲難ンン朴

記録の感想：手、奈、無、矢などは、同じものが多かった。

その語が名前に含まれる時、自分の名前にある漢字を用いた人が多い。

表II

	E	H	S	H	Y	M	N
	S	O	Y	S	M	H	S
い	☆	★	★	◆	☆	☆	▽
ろ	♥	◇	△	♣	／	♣	♣
は	△	♡	▽	☆	▲	▲	♣
に	★	▲	♣	♣	☆	★	▲
ほ	□	◇	◆	●	／	▽	♠
へ	◆	△	♣	☆	□	▽	★
と	♡	◆	♥	●	／	♣	♡
ち	★	♣	♥	♠	♥	♥	▽
り	◇	♡	▲	♠	★	♣	◇
ぬ	♥	□	●	●	／	■	◎
る	♡	♠	☆	♠	☆	▲	◇
を	□	■	■	△	／	■	▽
わ	△	☆	♣	△	♥	♠	▽
か	◇	♣	♥	★	◆	♥	♥
よ	□	★	◇	▲	／	◆	●
た	♡	▲	★	■	♣	△	△
れ	♥	♡	☆	◇	♣	♠	◇
そ	△	◇	□	●	／	◇	◇
つ	☆	☆	△	♡	／	☆	◆
ね	♥	♥	♣	☆	／	○	♣
な	★	♠	♠	▲	◇	♠	★
ら	◇	♡	☆	▲	／	♣	□
む	□	◇	★	♥	／	■	▲
う	☆	◇	♥	♥	／	◇	○
る	♡	★	★	♠	／	☆	○
の	▲	▲	▲	○	△	△	■
お	♣	♠	■	◎	／	◆	♣
く	▽	☆	♣	●	■	□	♥
や	♠	♥	●	♣	△	▲	◇
ま	△	▽	▽	○	／	♡	☆
け	▲	▲	▲	★	／	□	▲
ふ	□	◇	◇	♣	◇	□	■
こ	◇	☆	★	♠	／	★	▽
え	☆	♥	♣	♠	♥	◇	♡
て	♡	★	♣	◎	／	★	♥
あ	▲	♣	♣	★	♣	★	♠
さ	△	◇	◇	♠	／	♣	♡
き	♡	☆	△	♣	♥	▽	△
ゆ	♣	♠	♠	▲	／	♥	◆
め	▽	♡	△	♥	■	♡	♣
み	☆	♡	◇	●	／	★	♡
し	▽	◇	▲	♣	／	♥	♠
ゑ	♡	★	★	♣	◇	◇	★
ひ	▲	△	♣	▽	☆	♣	□
も	♠	◆	♠	♠	／	♥	▲
せ	♣	◇	◆	■	／	♠	◇
す	□	◇	▲	▽	☆	△	◇
ん	♡	■	／	▲	／	■	☆

- ☆ 黄 yellow
- ★ だいだい orange
- 白 white
- 深緑 deep green
- △ 黄緑 yellow green
- ▲ 緑 green
- 灰 grey
- 黒 black
- ◇ 水色 light blue
- ◆ 青 blue
- ♡ 桃 pink
- ♥ 赤 red
- ♣ 朱 vermillion
- ♣ 茶 brown
- ♠ 青紫 violet
- ♠ 紫 purple
- ◎ 金 gold
- ▽ 黄土色 yellow ochre
- ▼ 群青 ultramarine
- ♣ 赤茶 redish brown

表Ⅰデータの傾向と一考察

- 全体的傾向として、手 奈 無 矢 は同じ者が多かった。
- その音が 自分の名前にある場合は 自分の名前にある漢字を用いた人が多かった。
- 身体の部位名 自然の景色につながる漢字が多くみられる。
「い」胃 伊
「の」乃 野
「ち」血 地

身近な音が名前・名詞になっていく。音からくる命名は日本語にみられる。カサカサ笹 そのものからの、実体(状態)からの音に気づいていくことで、その実在に近づくことができるかもしれない。

いのちは多くの日本人にとって命名される以前はどのような音を発していたのだろうか。いのちの実在にどのように近づく方法が適切なのだろうか。

また、その本人にとっての「いのち」のイメージやいのち観を言語化する時間がワーク中に確保されると記憶の中でまとまりやすいので、「生命観のまとめ」という点をねらいとする場合は都合がよかったであろう。この時点では「言相に対して幻相言語への感受性」をねらいとしていたため、ワーク中あまり観念による言語化の時間をワーク直後にはもたなかった。

表Ⅱデータの傾向と色彩言語一考察

「い」黄 金 橙	心臓位	子宮位
「の」緑	みぞおち	胃袋位 身体の中心
「ち」赤 茶	肛門排泄位	性器位

日本語で実感した色 (chakra chart 英国印度流色彩部位)

表Ⅲデータの傾向と音言語一考察

「い」黄 緑	胃 みぞおち	右腕脇
「の」緑 青	腹部中心	首上
「ち」赤 橙 黄青	肛門排泄位	性器位 右腹部背後 左胸腺 心臓

(chakra chart) 日本音で実感した身体の部位

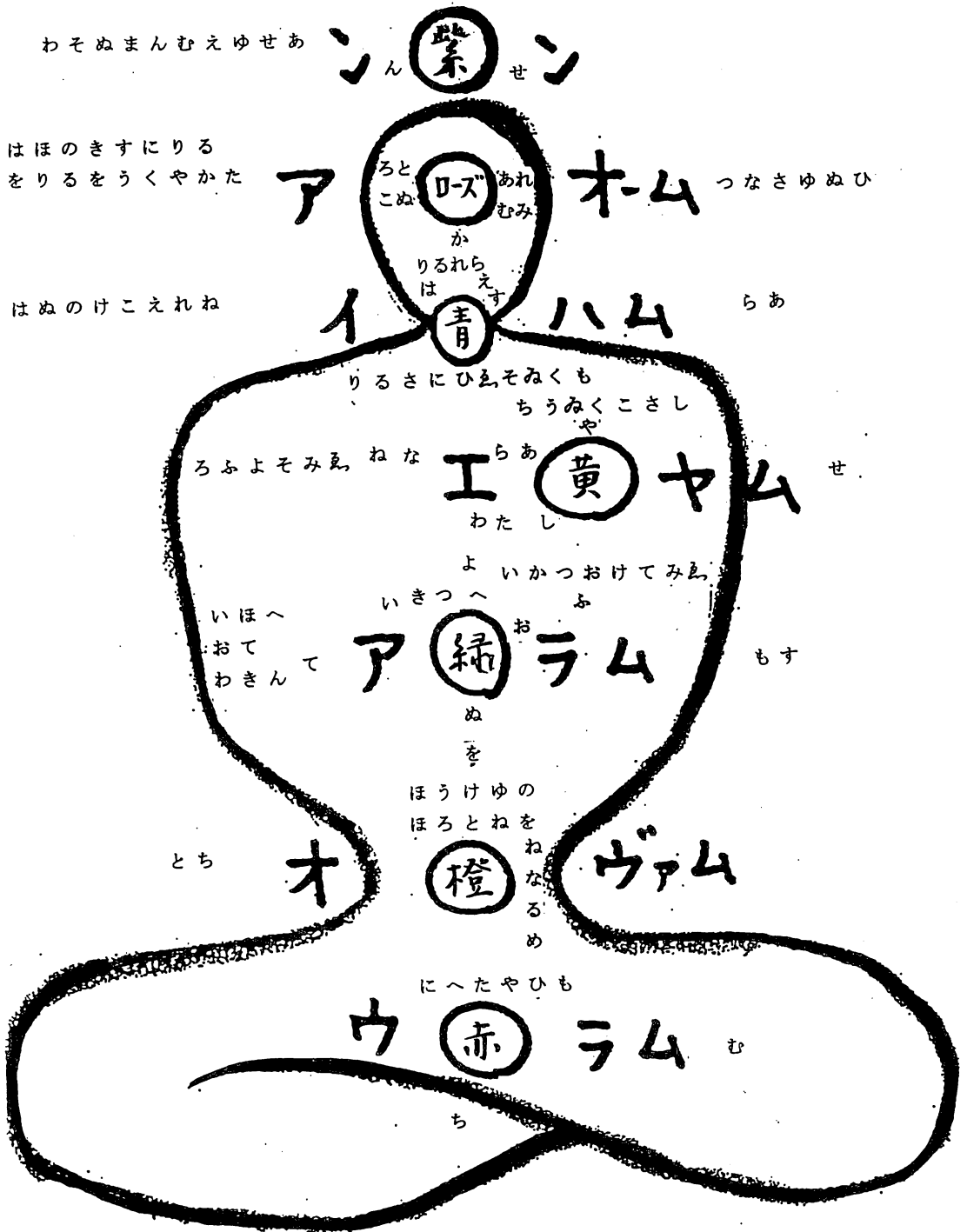
「い」「の」「ち」という音だけを取り出して 表の結果を眺めてみる。その音を発したときの色のイメージと その音が響く体の部位の実感、chakra chart の色彩と身体部位との対応と類似した傾向が見られた。「い」の呼吸で緑を感じ 胃部位から響く音、または胃部位がその音によって響く。「い」から「の」「ち」へ落ちていく。みぞおちは水(涙)の落ち着く中心部位といわれ、いのおち(いのちの落ち)と捉える音がある。

「い」「の」「ち」の各音からの色彩実感としては「青」の実感がない(表Ⅱ)。青は Chakra の色彩の意味としては「表現するエネルギー」「社会統制するされる願望」「地球の海」「空の色」「水色」につながる。「い」「の」「ち」の各音の響きの身体全体として反応する部位は、上部器官に反応するデータ(表Ⅲ)があるので、「青」に相当させるエネルギーを視覚的にはないが身体、内臓には感じているのではないか。

学生たちは日本語の響きや自分のいきだけで 色彩や様々な感覚や気づきに生き生きする。

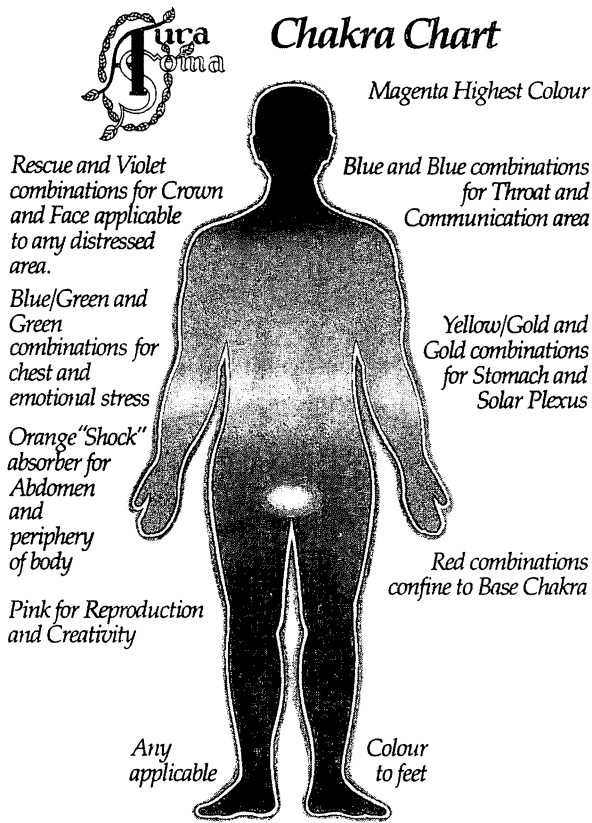
表Ⅲ 日本人受講者による 音位
(ひらかな)

表Ⅳ インド瞑想法による 音と色
(カタカナ)



いのちの詞

表V



Where possible apply around body to include Spine

AURA-SOMA – THE MIRACLE OF COLOUR HEALING and PERSONAL GUIDANCE.
AURA-SOMA (In Sanskrit, Light made Manifest, Living Energies).

CHAKRA / STATION / LOCATION	COLOUR and COMBINATIONS within the 'BALANCE' range	KEYNOTES: SPIRITUAL / PSYCHOLOGICAL	PHYSICAL
Seventh Crown, Top of Head, Pineal Gland.	Violet Purple B1, B1A, B15, B16, B17, B18, B19, B25, B35, B36, B37, B38, B39, B49, B51, B52.	Spirituality, Service, Healing Dedication, Third Eye.	Headaches, Insomnia, Stress, Over-active symptoms.
Sixth Brow, Forehead, Thalamus.	Indigo- Deep Blue B32, B33, B47	Deep Memory, Dreams, Psychic communication, Insight.	Acute Stress, Deep Depression, after "Withdrawal".
Fifth Throat, Neck, Thyroid, Nose, Ears, Mouth.	Blue- Sky Blue B2, B3, B8, B9, B12, B20, B29, B30, B33, B37, B43, B44, B49.	Communication, Creativity, Peace, Channelling.	Throat ailments, Coughs and Colds.
Fourth Centre of Chest, Breath, Thymus.	Green Emerald B3, B7, B9, B10, B13, B17, B21, B27, B28, B31, B38, B46.	Space, Direction, The Truth, The Way, and the Life, Prosperity.	Heart (angina), Lungs, Asthma, Bronchitis, Persistent Coughs.
Third Solar Plexus Stomach.	Yellow- Gold B4, B5, B7, B8, B14, B18, B22, B31, B32, B39, B40, B41, B42, B47.	Wisdom, Discernment, Clear Thinking, Knowledge of Self.	Skin, Nervous System, Pancreas, Liver, Endocrine System.
Second Navel, Spleen, Bladder, Adrenals.	Orange B26.	Shock Absorber, All Recovery Situations, Appetite.	Intestines, Bowel, Colon, Prostrate, Accidents, provides energy.
First Base, Root (Sacral), Reproductive Area.	Red/Scarlet B5, B6, B19, B27, B28, B29, B30, B40, B51.	Energy, essential for grounding and earthing.	For under active symptoms, Energiser and Protector.
Eighth Above Crown	Magenta B25, B45, B46, B50.	Above the crown and in the reproductive area, Compassion, Meditation.	Universal Healer.
Within the Base Chakra. (See Chart)	Pink B11, B20, B21, B22, B23, B24, B35, B36, B52.	Unconditional Love, Children and Child-rearing.	Womb, over activity at a cellular level.

In 'Balance' combinations: TOP COLOURS - Conscious Present
 BOTTOM COLOURS - Unconscious Past

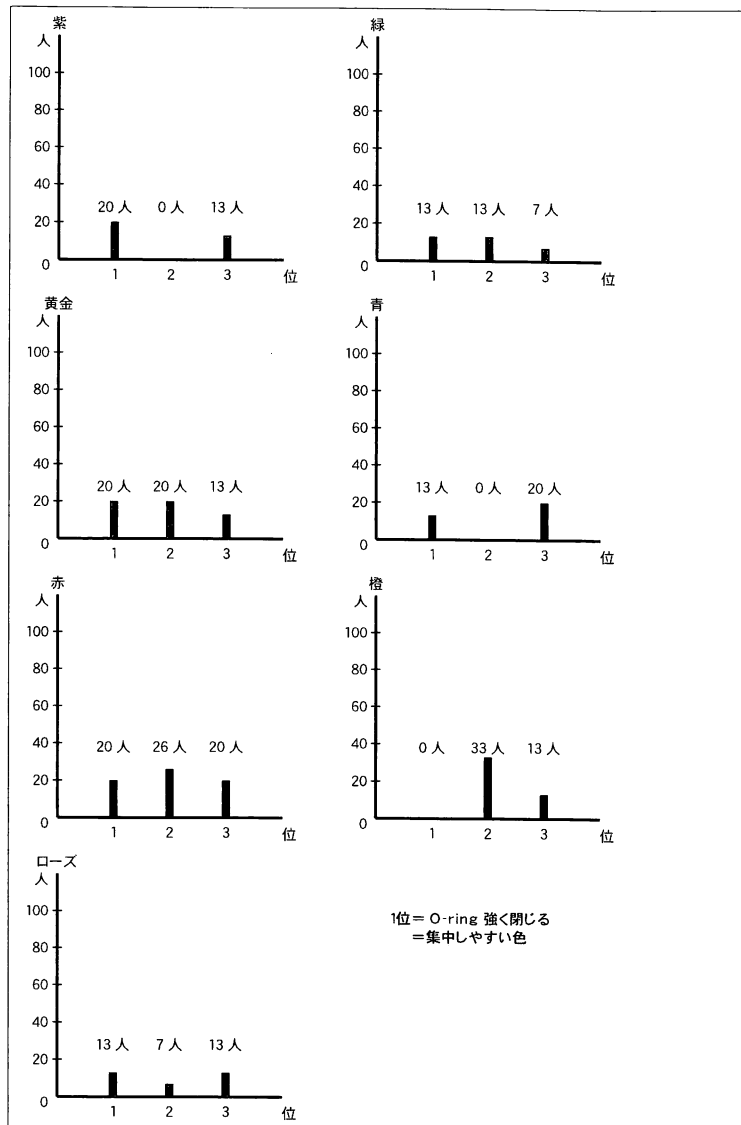
'Balance' refers to the Aura-Soma dual coloured oils.

There are over 60 'Balance' combination colours, some of which are allocated to the eight chakras and indicated by the Nos. B1 etc.

For further information and lists of 'Balance' Bottles, Unctures, Pomanders and Quintessences please write to: Dev Aura, Little London, Telford, Nr. Horncastle, Lincs. LN9 6QL. (Tel: 0507 533781 Fax: 0507 533412) enclosing an S.A.E.

表VI

work「たましひいろ」より



Ⅲ 「いろはうた」 一説一説、一文一文を音ずる、唱するヒーリング医効果

現時点では いろはワークは 一音一音のワークにとどまっている。いろは歌の一説一説や 一文としての 意味把握に至らせていない。 というのは いまは Life Science をはじめとする一連の医科学生命医療の教育が 西洋の体やことばから生まれた物であるということに着目して、では日本人のからだやことばから発する「い・の・ち」の音やことばは何かという 問いかけや姿勢 息づかいを意識しているのである。自分の体からの音にまず意識を向けてみる。しかし 音は 音節になり 音に心とかけば「意」にもなる。音は ことばとなり 意味にいたる。

<いのち という 語の実感に気づくことからの出発 life awareness と life science の相補性 生命の文化性と生命科学・自文化と科学>

各自は まず 日ごろ使っていることばは 実は ひとつひとつの響く音 それも 自らの息 呼吸 身体が存在からくる音の響きと一体となっていることばであることを確認する。 さらに ひとり一人異なる響きとその音のイメージや 表意漢字と表音文字である日本語の一音一音の意味を本人自ら引き出している。

「い」「の」「ち」という一音一音と 「い の ち」という一連の語の実感を整理する。いのちという語はその本人にとってどのような響きの存在のものなのか、をいろはワークの息遣いの作業を通して整理する。

生命科学論の結論ではなく 実際と感じた「ひとりの人間としての」いのちのイメージを まずありのままに残す。その実感や体験をスタートとして論じていくのである。

専門家による一科学家による「生命論」の生成と伝達ではなく、一市民 ひとりの人間の営みによる「実感による生命論の発見 気づき 築き」「素人によることばで成り立つ体験学習による生命論」を日本人の声・本音による学習過程として残し、願わくは、日本人の本音や学習過程を体験した「生命の科学という学問形成」を促したいと願っている。翻訳や逆輸入でない学問形成は 身近な若者の身をもっての実感や悲鳴にも似た[叫び]という本音[呼吸というしずかにして永続的営みからの言語化作業 論理化作業 そのものも「これからの日本人の全身全霊（からだ ところ たましい）という身体性を基盤とした生命論の学問形成につながるものと洞察している。

「まず体験し 気づいて行く 学習」そして その気づきは次の体験的行動形成や行動変革にまでつながる学習過程であり、自文化への気づきのプロセス、自文化を踏まえた学問形成過程なのである。

ワーク後は本人の感想 又、していて 気づいたことなどを記述しておく。また 感じなかったこと、期待に反して感じたこと感じなかったことの自覚や自意識化により 自分の持つ生命イメージや生命観の意識化言語化につながるであろう。

何でもよい、一見関係ないようなことでも構わないので そのいろはワークの際中に想像したり 空想したり 思いついたり いのちのイメージをできる限り記述しておく。

各人の分析や気づきの言語化は「いのちとことば」のFantasy work では次の段階として、授業時間枠内では十分な作業時間が確保されていない。生活全般が言語化する学校生活、学校教育機構の中で、幻相の言語化を同じ時間空間でもつには90分クラスは短かすぎると言える。2000年度は180分で試みる。それにより Life Science & Life Fantasy のバランスを保つ。しかし、体験からの言語化は、学習であり、いやしでもあり得る。各人の時のペースにゆだね、授業時間内での言語化作業を避ける場合もある。

IV 「いろはワーク」による呼吸ワーク生命論 と アワ唄による呼吸法とその由来

特記：いのちとことば いろはワーク開講（1993）後の 神代文字いろは唄（1997東京）そしてあわ歌（1999伊勢）との出会い

ワカ姫と「あわ歌」（ホツマツタエの一アヤ）より

これを読みその意味を知ることにより、私、まだかヒルタ庸代が、人間関係科学学習研究共同体に於て 生命科学と体験学習の接点として1992人間関係科専門科目「いのちとことば」を創設開講させてもらいそこでオリジナル実習「いろはワーク」で試みてきたことの意味がここに見いだせた。このことは自分自身の約15年間の生命の学の方法論をめぐる日本文化論的アプローチやLIFE FANTASYの試みとしての「いろはワーク」にひとつの返答でもあった。

私自身は「いろは歌」を自身の体で発声することを通して 健康や 生命的核心と論理に出合おうとしていた。日本語の平かなの音や言葉に着目し始めていたのである。

一方、「アワ歌」の医療的効用を実践的に報告している人物と書物に出合った。そして、その事が日本の古事記や日本書紀より以前の日本の歴史を語る古文書「ホツマツタエ」の一アヤに書き出されており、そのアワ歌は、「天地歌」として大人が子供に伝えていた音で、人間における言葉の大事を意味し、同時に陰陽の大事をも説いているという。そのアワ歌を通して音声をはっきり発声呼吸し、健康や自然運行の理に叶うと言うのである。

<アワ歌>

アカハサマ イキヒニミウク
 フヌムエケ フネメオコホノ

 モトロソヨ ヲテレセイエツル
 スユンチリ シイエタラサヤワ

 ソエワカハ ワカヒメノカミ
 ステラレテ ヒロタトソタ^{*} ツ
 カナサキノ ツマノチオエテ
 アウウワヤ テフチシホノメ

という下りで、わか姫への教育としてかかされているが子供達一般を含めて説かれていと解釈されている。(松本1997)

以下、紹介させていただく。 石田英湾「言霊 アワ歌の力」(あさを社)

一、「アワ歌」との出会いとめぐりあわせ

最近、脳神経障害や目耳鼻、皮膚などの知覚、感覚器官の障害をもつ幼少児童が、たいへん多くなってきています。たくさんの病院をめぐり巡っても確たる治療法がなく、医師もてこずっている状況です。(中略)

『秀真伝』に述べられている効果は必ず得られると確信できるのです。なぜなら、この歌を唱和すればするほど、わが身の生命の気が、宇宙生命の気と一体になって循環しあう恍惚感を全身に感じられるからです。生命波動が宇宙天然自然の波動と調和して強化されるのを感じることができるのです。

二、「アワ歌」とは何か

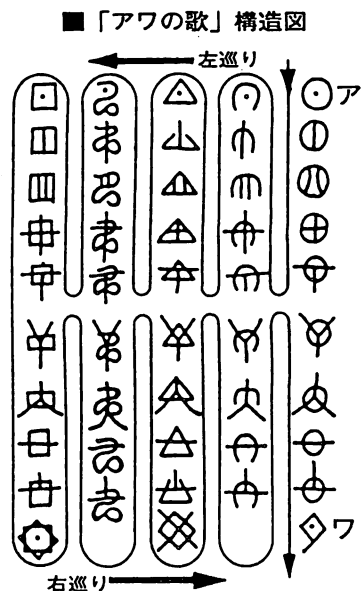
「アワ歌」は四十八音によって構成されています。それは次のとおりです。

アカハナマ イキヒニミウク
 フヌムエケ ヘネメオコホノ
 モトロソヨ ヲテレセイエツル
 スユンチリ シキタラサヤワ

古代文字では次のように記されています。

「ア」の音から始まり、「ワ」の音で終るまで、万遍なく螺旋を描いてつづきます。「ア」は天を表わし、「ワ」は地を表わし、天と地の間に四十六音が連なっていて、天地を結ぶ歌となっています。

神代・上古代の人たちはこの「アワの歌」に基づく四十八音を神々として感得し、大宇



宙の運行や、天体と人間の肉体や精神やあるいは社会との関わりあいを感じとったのです。

声をだしてこの歌を詠うと、初めは妙な気がしますが、慣れるとまことに詠いやすい音の配列になっていることが自得されるでしょう。

三、「アワ歌」は日本の呼吸法

各地の、いろいろな境遇の人達が「アワ歌」をうたい始めています。

Iさんは、島根県で障害児教育にとり組んでいます。彼は、青年時代ギターを片手に、五年間ほどかけて、世界の障害児教育法と施設などの実状研究のため視察して歩きました。帰国して、自然農法による自給自足生活を始めるとともに、縁あって知り合った障害児を引き受けて共同合宿生活をするようになりました。すこしずつ施設を充実させ、さまざまな障害をもつ児童数も多くなりました。外国で学んだたくさんの方の教育法に、自身で工夫した教育法と農作業などの労働をも加えて、障害児の厚生につとめているわけです。しかし、年月が経つにつれて、なにかひとつモノ足りなさを感じられてなりません。このモノ足りなさが何からくるのか、なかなかわかりませんでした。世界の最先端をゆく外国の障害児教育を、彼は参考にして励み、たずさわっています。それなりの自信の下に、園児と保護者に接しているのですが、いまひとつ何か納得しきれないのです。

そんな或る日、私の「アワ歌」に関する記事を目にしました。「アワ歌」は、本当は琴の伴奏でうたうのが理想です。しかし、彼は琴をひきません。琴がわりに、愛用のギターで即興のフシをつけて、彼独自のリズムでうたっていました。するとどうでしょう。学園に一大異変が生れたのです。

彼が「アワ歌」をうたいはじめると、てんでんバラバラに勝手な行為行動をしていて先生や保護者の言うことになかなか耳を貸さない園児達が、一瞬耳をそばだてて、キョトンとします。その光景は、野生動物のあの姿によく似ています。サッと耳をそばだて、ハテッ？ と周囲をうかがって静観する姿です。そして音の出処でどころがわかると、だれからとなくIさんの周囲に集まってきます。興味深そうに「アワ歌」に聞きほれます。以前には、このようなことはありませんでした。集合の合図をかけても、いっせいに共同動作や行動をとれないのが、「アワ歌」をうたうと、しぜんに集合する。Iさんはビックリしてしまいました。なによりものオドロキは、「アワ歌」を耳にする時の、園児の目つきとかがやきです。目がいき活きてくるのです。全身に安心とよろこびの表情が浮き出てきます。これはいったいどうしたことだろう、とIさんは考えました。

就寝時に、「アワ歌」を静かに唱じてみました。寝つきがはやくなり、深い呼吸をするようになりました。外国の音楽や、外国の宗教歌や、外国の童謡の時とは、明らかにちがいます。

Iさんははじめて、永年探求しつづけていたモノ足りなさの原因を、覚りました。教育にも身土不二の原則がある、と覚ったのです。お手本を外国に求めてきましたが、日本人のこころは、日本の風土に培われた日本のこころのものでなくては本当のヒビキあい（共振共鳴）に至らないと、彼は覚ったのです。

「アワ歌」は、言葉や五臓六腑神経をととのえるのみならず、こころそのものをやすらげととのえる力があるのです。日本の気候風土の呼吸リズムが、「アワ歌」の構成に組み込まれているのです。

いまひとつ、私事で恐縮ですが、体験を披露して参考に供したいと存じます。

散歩などの歩行中に、鼻唄気分のうたい方でけっこうですから、ぜひ唱じてみて下さい。下腹丹田に心地よい腹圧のかかるのが納得されるはずですよ。唱せず歩くことも行ってみて下さい。どちらがうか、腹圧のかかりぐあいがわかります。そしてこの腹圧は、あなた自身の、いまの体力に相応した、無理のない、それでいて天地・気候風土のエネルギーや状況に合致した合理的腹圧です。体力が強ければ強いなり、弱ければ弱いなり、あなたの自然良能と協調し促進する適正な腹圧です。これを続け、習慣とすることによって、横隔膜の活動も肺の活動も連携して強化されてきます。こうしたことから私は、「アワ歌」は日本の呼吸法であると言わずにはいられないのです。

四、「アワ歌」の由緒（起源）

「アワ歌」は伊奘諾尊・伊奘冉尊によってつくられました。その根拠は『秀真伝』^{オホマコト}「五紋」^{イモ}に次のように記されています。

「二神の	瀛壺に居て
国生めど	民の言葉の
悉曇り	これ直さんと
考ゑて	五音七道の
アワ歌お	上二十四声
伊奘諾尊と	下二十四声
伊奘冉尊と	歌い連ねて
教ゆれば	歌の音声の
道開け	民の言葉の
整ゑば	———」

（口訳）

「むかし伊奘諾尊と伊奘冉尊の二神は、瀛壺（近江）にいらっしゃって、国の再建に励まれたのですが、民の言葉がことごとく乱れてしまっていました。二神は、それを直そうとお考えになり、アワ歌四十八音をお作りになり、上二十四音を伊奘諾尊が下二十四音を伊奘冉尊が、ともに歌い連ねて民にお教えになると、そのアワ歌によって音声の道が開き、民の言葉が正しく整ったのでした」（以下『秀真伝』より引用）「アワ歌」とは、「ア」からはじまり、「ワ」で終わることからこう呼ばれるようになり、「ア」が天、「ワ」が地、を意味することから、天地と感応する「天地歌」の意味でもあります。

五、「アワ歌」の神力（言霊）

伊奘諾尊・伊奘冉尊は民の言葉の乱れを直すためにアワ歌四十八音を作られた、と記されていますが、ただそれだけのためではありません。アワ歌の言霊作用は、ほかにも、はかりしれない力があります。

次のようにも記されています。

「アワ歌お 常に教へて
アカハナマ イキヒニミウク
フヌムエケ ヘネメオコホノ
モトロソヨ ヲテレセエツル
スユンチリ シキタラサヤワ
アワの歌 葛垣琴打ちて
弾き歌ふ 自づと声も
明らかに 五臓六腑緒
音声分け 二十四に通ひ
四十八声 これ身の内の
巡り良く 病あらねば
永らえて ——」

(口訳)

「アワ歌を、常日ごろ教えて、

アカハナマ イキヒニミウク フヌムエケ ヘネメオコホノ
モトロソヨ ヲテレセエツル スユンチリ シキタラサヤワ

と葛垣打琴の音にあわせ歌うと自づと声も明らかになり、五臓六腑や魂の緒までが四十八音の神々の言霊の霊妙な力によって整うのです。心身の神気・霊気の巡りが良くなり、病にもかからなければ、長寿を得ることができます」

四十八音の神々の言霊とは、アカハナマ四十八音のことです。これら一音一音は言霊の神々であり、この四十八音神によって心身が成り立っています。この四十八音には天界と地界の生命力を結び合わせて一体化してヒトの生命力とする力、気候風土天変地異に対応して調和する力、五臓六腑や神経や心のはたらきを整えて作動させる力、眉目髪を健全にして守りはたらかせる力など、一音一音が言霊の神々として作用します。人体の、陽の十二の経絡とツボの裏・表、陰の十二の経絡とツボの裏・表、合計四十八の経絡とツボは、言霊の神々と人体が交信共鳴しあう窓であり道であり要の地であるようです。

六、「アワ歌」の歌い方、唱和のしかた

アワ歌は、いつ、どこでも、できます。できることなら、なるべく気持ちをしずめて、こころ静かに、一節一節を息吐きながら唱和するのがよいでしょう。

慣れるにしたがって、一音一音みなハタラキのちがう神々であることを体感できるようになります。四十八音の言霊が、それぞれの振動（バイブレーション）作用で、血液や体液や細胞を構成している原子に作用して活力を授け、組織の“気”を賦活しはじめます。

朝、起床時か朝食前に二～三遍、夕、帰宅時とか夕食前に、家族揃って三遍、あとは随時、唱和するのがよいでしょう。

冒頭に述べたとおり、いつ、どこでも、気軽に行ってもよいことです。たとえば、車を運転しながら、乗物に乗ってる時、家事をしながらでも散歩しながらでも、遊んでいる時でも、トイレで用便をしながらでも、かまいません。無意識にくちずさむようになれば、たいへんけっこうです。要は、四十八音の言霊のヒビキをできるだけ多く全身に宿っていただくことです。

いちばん効果的なのは、静坐し、瞑目して、気持をしずめ心おちつかせながら、静かに息を吐きながら、一音一音をしっかり唱和する方法です。

これを半年、一年、二年、三年と励行するうちに生氣は高められ、宇宙の“気”と共に振あって生命のリズムは整って、健康度は高まり、身心は爽快になります。力まずあせらず、楽しみながら根気よく、毎日続けてみてください。日本の風土が生んだ、日本人々にもっとも適合した生命の“気”活性法であることを自覚納得するでしょう。

伊弉諾尊・伊弉冉尊も、天照神も、ただただこの瑞穂の国の民の健康と平和を請い願ってこのアワ歌を作られ、生活や政治（祭りごと）の実践実用にとめられたようです。

七、「アワ歌」を補助する自然のヒビキ

アワ歌の神力（言霊）を説明するひとつに、「アワの歌 葛垣琴打ちて 弾き歌ふ自づと声も 明らかに」と、葛垣琴とともに歌うとさらに効果あることが記されています。

Ⅵ「いろはワーク」で「いきすること」（呼吸）と神代文字で「いろはの根本文字」を書くワーク（写本）のHealing 医効果

（神代文字 かく による 「い」「の」「ち」の気づき・語彙の語意）

友常貴仁当主〔聖徳太子末裔〕「もう朝だぞ」（P49）で紹介された写本がある。「いままでの人生で知った全知識。」を書いたという周講師の「千字本」。聖徳太子は 早朝 法隆寺夢殿（八角堂）で「千字本」を写本し 法華經に至ったという。

わたしが「いのち」というひらかなの研究の途上、神代文字と出会い、供養で書くことの意味がこと重なる。仏教の写経〔仏の達した教え〕 キリスト教社会の写本〔キリストに出合った人の思い〕印刷、論文を書くこと（思考） 手紙を書くこと〔気持ち〕、書くことの行の意味は 「主と一体化すること」である。一体化することで見えてくる 見えないものも見えてくる 識別され知識となる。このような認識方法を「いのち」「人間関係」の学習方法としてとりうると仮定し生きてみた。

筆者まどか自身は 二つの点で いろは唄を重視している。

1. 自分自身の実感から 上古第二代の文字が体に書き易く、呼吸し易かったという体験と出会い その時代に詠まれた歌と一体化しやすい。

2. いろは唄が色即是空という般若心経の内容を平かなで歌ったということを手がかりに、文字はそこにその國の思想を込めたもの、または、唄（声）であるということを示唆している。

<いろは根本文字が存在すること と 一音一字のカミ(力)の存在> 安藤1996

<作品展示及び神代文字という文字をかく> 手本本（写本）安藤妍雪書

各天皇時代別に分類されたアイウエオ五十一音の文字を発声しながら神歌として左回転の螺旋状に毛筆で写本していく呼吸を伴う修行である。

上古第一代 上古第二代 と書き進んだとき 自分自身の手が止まり息が深く腑に落ちる落ち着きと安らぎを感じた。書いていた文字と自分自身の身体の動き息遣いが一体となった。一言で言えば 自分には大変書きやすい文字であった。

代によりその人に書きやすい文字と大変書きにくい文字とがあり、その人の存在の在りようにも関連しているようだ。

上古第二代ツクリシキヨロス^{*} ヲスメラミコト時代の文字だという。「いろは」はこの時代の天皇と皇女の遠征の旅の惜別の唄で、この[いろは四十八文字]の中には「イチヨラノヤエ知らずは何も解けません」という意が込められているという。

ひらかな「いろは」は神代文字の解釈によると、その後空海弘法大師（774-835）が中国からの帰国後「ひらかな」と「いろは」を学び国民に流布したという。

<いろは歌の文字>

いろはにほへと
ちりぬるを
わかよたれそ
つねならむ
うるのおくやま
けふこえて
あさきゆめみし
ゑひもせす

<いろは仮名根本字>

イ ト
チ カ
ヨ ナ
ラ ク
ヤ テ
ア シ
エ ス

<般若心経>

色は匂へど
散りぬるを
我が世誰ぞ
常ならむ
有為の奥山
今日越えて
浅き夢みし
酔ひもせす

惠	阿	耶	良	餘	千	以	
廻會	安	也	羅	孛	知	伊	
比	佐	万	牟	多	利	呂	
非皮	作	麻	无	太	理	路	
毛	伎	計	有	連	奴	波	
囊文	畿	介	宇	礼	沼	八	
勢	喻	不	為	曾	流	耳	
世	山	符	謂	祖	留	尔	
須	女	己	能	津	乎	本	
寸	面	古	乃	ッ	遠	保	
	美	衣	於	祿	和	へ	
	弥	延		年	王	反	
	之	天	久	那	加	止	
	士	呂	九	奈	可	都	

先ッ可レシ知ニル所レノ付スル借字ッ

<承暦本「金光明最勝王経音義」>
(小松-以呂波の古い姿-)

(一) 『いろは』について

上古第 三代 造化氣方男天皇の御代の作で 天皇と皇女の旅での惜別の意をこめて詠じたものと云われている。

空海弘法大師(七七四~八三三)は中国からの帰国後、ある理由で竹内家を訪ね「ひらがな」と「いろは」を「字の明」に流布することを許された。

尚、文字の型は初め開国文字であり、後、ウガヤ第六十四代豊日豊足彦天皇のヒカラ文字を起対として『イロハ』を『ひらがな』文字とした。

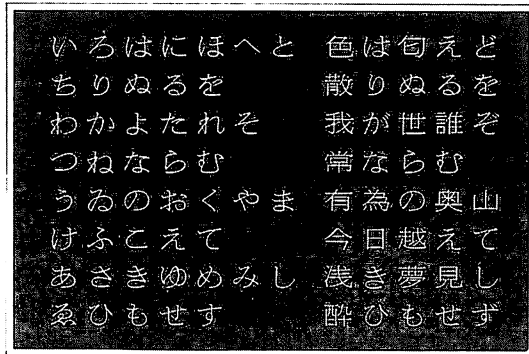
(1) The *Iroha*-poem .

We believe that the *Tsukenisiki-Taro* Emperor wrote in his day (the second period of Jōhko) with emotion of reluctance to leave the wife during the trip.

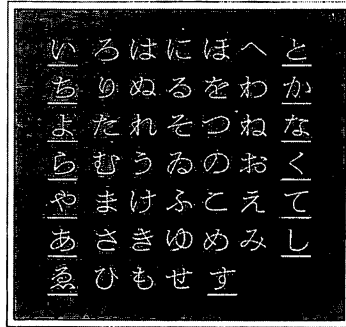
Kobuh-Iaishi (774-835) visited to *Takeuchi's* family to learn "*Hiragana*" and "*Iroha*" after his trip to China and got approval to spread among the people.

N.B. .

The early *Iroha*-poem was written in *Toyokuni*-Character. Then it was transformed *Hiragana*-Character



that is based upon to *Hikara*-Character of the sixty-fourth period of *Ugaya*, the *Toyohi-Toyotaruhiko* Emperor's day.



▲ひらがなの首冠に秘められた暗号

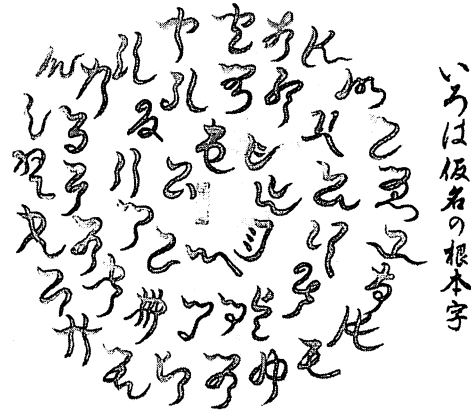
(二) 『いろは』

この『いろは』は四十八文字、中には『イチヨラ』のヤハエ知らずば何もとけません。という謎が秘められております。

これは天地創造のときの物質界の創造にあたられました人元の神様(日本太古の原点イシュベッシュ・ヤハエウエの神)天津御祖がわからなければ、『いろは』は四十八文字の意味は解らないということの秘密の謎です。『イチヨラ』とは一つしかない意。

(2) The secret sentence in the *Iroha*-poem

We found the secret sentence in "*Iroha-poem*" as follows. "If you don't know *Amatsumiyaya* (or *Yahweh*), the God who made the material world in the Creation, you world understand nothing".



いろは仮名の根本字

(安藤妍雪) 書の靈智塾 神代古代文字研究家

■神代文字展 作品製作記録 と 気づき

作品No.1 「いのち」 1997.12 名古屋98北海道

作品No.2 「風つち」 1998. 7 奈良名古屋99鈴鹿徳島東京

作品No.3 「いろは」 1998.12 名古屋99富山99

<「いのち」まどか庸代謹書>上古第二代造化氣万男天皇

(その時代のアイウエオ) 割愛

(かくプロセスで気づいたこと 直観的記述)

いのち

「い」の働きは懐(胃袋)をかかえる

「い」はそうして「居る」こと

その姿は安心 安定 ほっとしている

「い」は 笑っている ほほえましい

「い」は い る いきは吐かれ居る状態

だるま

「の」の働きは のべる

「の」は山の野原 乃 空間

「の」は そういう場という意味

「の」は存在

「の」

やま

「ち」は 御血 カリス

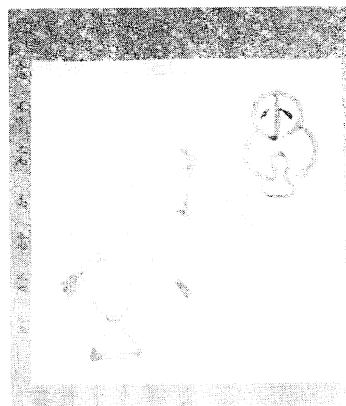
「ち」は 水 液体

「ち」は 器に入った液体

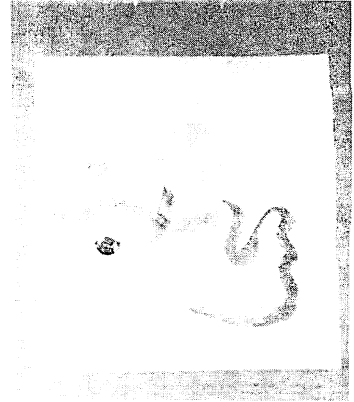
「ち」は ながれさる

「ち」は ち るもの

御血



<「風土 ツチ」まどか庸代謹書>上古十一代天三降主天皇 クサモジ



(その時代のアイウエオ) 割愛

(かくプロセスで気づいたこと)

風土は x y

風土は 交わり

風土は おんな おとこ いのち

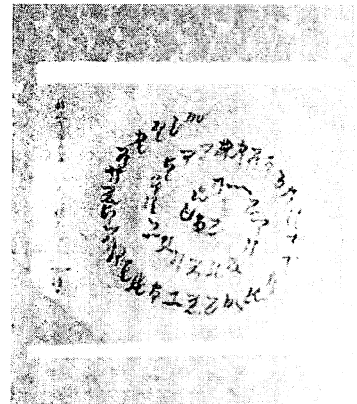
風土は ち で おちる (地で落着する)

風土は 歴史を持ち込んだ存在の出会い

風土は 異なったものの交わり

風には土が必要である。

<「いろは」まどか ASSEMAT 庸代謹書>いろは仮名の根本字



(その時代のアイウエオ) 割愛

(かくプロセスで気づいたこと)

いろはをかくことと一音一音に感謝

しつつかく

かくのがやっとの思いだった

(展示研究展で出会った不思議なこと)

今回初めて神歌の渦巻でかいた書

「いろは」の作品に合いにきました と全く知らない方 (伊勢の巫女のお役) の訪問を受ける。

私の師の作品に今回はいろはの作品がなく、私のかいたものだけだったのも何かの偶然なのだといわれた。自作品の渦巻の前でこの偶然が何故かありがたかった。生命論ワークを通して「いろは」ひとつひとつの存在を大切にしてきた数年間の歴史がこの作品に重なった。

V 「いろはワーク」と 神代文字による いろは唄の説々

さて、日本人が文字を習おうとすると、あるいは文字の教育は「アイウエオ」の五十一音図表と「いろは唄」四十七文字が一般的である。しかしそれは何処からきたのだろうか。その起源は、その意味はと疑問は続く。説も様々である。

例えば次のような説がある。

1. 空海説 (色即是空 : 色は匂へと散りぬるを) 平「仮名」
2. 柿の本人麿説 (止加那久天之須 ⇨ 咎なくて死す)「借字」
3. 神代文字 上古第二代説 (イチヨラのヤハエ解かなくて死す)「神名」

「神代文字」とは

日本の文字は 現在 漢字とかな (ひらかな・カタカナ) が用いられている。小学生は 書道による毛筆で「かく」ことを学び、同時に国際的共通語となっている西洋主要国の文字としてローマ字 (アルファベット) を修得することが義務づけられている。

日本の文字の音 即ち 日本語は 五十一音図 (あ行-わ行ん) いろは歌 四十八音である。 現代人が用いている日本語の音は濁音ふくめて5母音掛け15行引く5 (ヤ行:イウ ワ行:イウエ) 足す1 (ン) = 七十一音使用している計算となる。

この音をもって多くの日本語は表記表音されている。日本人の身体から発音・発声発言されている。あるいは「声なき声」として身体や感情や意識無意識下にあるいは精神性としても残り得るのである。

日本の歴史書「古事記」「日本書紀」によると、日本の文字は漢字が移入される前は存在しなかったというものであった。推古天皇女帝の時代に聖徳太子・和銅4年(711)元明天皇の勅を大安万呂が奉じ稗田の阿礼にショウ習 (書物をそら読みさせ翌年にセン上した。という (安藤P48))

神代文字は ここで日本語論を展開するのではなく、生命論の一環の中で「いのち」というひらかなで書かれる日本語の「生命」の解釈をすることで日本における生命科学や生命を対象とする研究方法のあり方を考察しようとするプロセスで出合ったテーマである。生命科学は LIFE SCIENCE の訳語として1970年代に学問領域として台頭してきた自然科学的方法論 (分子生物学) を基盤にしている。しかし、「生命」という語はLIFE SCIENCEにおいて「生物」と一線を画していた。生物はその物質性ゆえに自然科学対象とした。自然科学的方法を目指した生物学は生命学ではなかった。しかし「生物科学」ではなく「生命科学」と称す以上、生命の物理性だけでなく、倫理性 西欧諸国や日本だけでなく各国の文化性、人間観、関係性を無視できなくなった。宗教性と科学性のコラボレーション共同理解が「生命科学」の台頭により必要となった。また、研究探索可能な時代になったのである。(cf. 人間関係「宗教人と科学

人の対話」)

物質と精神と魂(身体性精神性霊性)を区別して科学的研究共同体を成立させてきた近代西洋科学者社会にとって、科学と神学の論理的記述が可能な研究対象を限定してきたのであるから、タブー視は大切な禁欲的研究行為である。

「死 魂 古代」日本においては「宗教」も官立学校教育においてはタブー視されているのである。

しかし、研究対象を「生命」というひとのいのちに広げることにより、科学や神学の近代伝統的正統的作業の範囲や枠を超える方法も同時に探らなければならない。時代の限界もあって、どの様に提示するのがよいかと考慮のいるところである。

「日本語」は複雑すぎて学会の研究対象として扱うには物理化しにくく、一種タブー視されているようにも感ずる。言霊ことだま研究にもつながり得る議論でもある。学会、学界というより、学者というひとりひとりのあり方も問われる議論にもなる。

しかし日本人の身体性にあった医学医療、生命論は、今後日本語を無視できないだろう。日本のことばを大切にしよう関わりは、自分に対しても人に対しても快く健全な人間尊重の風土を培む。

〔謝意〕

いろはにほへとちりぬるを・・・ このことばは ある時は ある人によって 人の弔いのこばにもなり、ある時ある人によって 人の誕生の祝いのことばにもなり 日本の風土のきわまりの中で 何らかの形で 腑に落ちる 普遍性をともなう「おと」「うた」である。

ここに そのうたを語り継がれた名も知れぬひとびと その思いと一体となったことばの風土 日本人の一生一生をともなった いのちとことばに 敬意とユーモアをもって 謝意を表します。

幼少より鈴木小江(書家)元参議院議員夫妻、平成元年樋田和彦医師(1989「医学といのち」日本ホリスティック医学協会理事)、中山靖雄道場長(伊勢修養団)平成七年安藤妍雪女史(書家、神代文字研究家)、青山ひづる女史(aura soma)よりの惜しみない貴重な資料提供と出会いに支えられました。

また、このいのちとことば「いろはワーク」を実現させてくれた南山短期大学の歴史及び人間関係科スタッフはじめとする人間関係科生(ニンカン生)26期による学習研究共同体 learning community のさわやかな2年間、25期ホリスティックグループ、20期まどかソサエティししゃもグループ ワークショップ「いのちと詞(ことば)」(1992御岳合宿)メンバーの意識深い協力で感謝します。メリット先生、グラバア先生のおかげで内発的創造性の灯を消さずに人間性を生きるチャレンジができました。

この研究の一部は 南山短大フラッテン研究奨励金によります。

日本人の精神史試論 生命科学 編

日本人の精神史試論 医学といのち Healingart編

日本人の精神史試論 いのちとことばLIFE fantasy編

日本人の精神史試論 神代文字編

日本人の精神史試論 キリスト教と武道

日本人の精神史試論 和学形成

書くという行為 行い 振る舞いについての解説は別稿でのべる。

<参考文献>

安藤妍雪「元ひとつ」(霊智塾) 1996 (1996入手)

九鬼周造「いきの構造」(岩波文庫) 1979, 1987

大野 晋「日本語をさかのぼる」(岩波新書) 1974, 1993

石川九楊「NHK人間大学 書という芸術」(日本放送協会) 1997

石田英湾「言霊アヲ歌の力」(あさを社) 1992, 1996 (1999入手)

松本善之助「秘められた日本古代史ホツマツタへ」

(毎日新聞社) 1980 1997 (1999入手)

松本善之助「秘められた日本古代史(続)ホツマツタへ」

(毎日新聞社) 1984 1991 (1999入手)

松本善之助「ホツマ古代日本人の知恵」自然に則して生きる

(溪声社) 1993

村上通典「いろは歌の暗号」(文藝春秋) 1994

梅棹忠夫「日本語と日本文明」(くもん出版)1988

小松英男「いろはうた」(中公新書) 1979

(石田英湾参考文献)

『完訳秀真伝上・下』鳥居礼編著、八幡書店

『言霊^{ことだま}-ホツマ』鳥居礼著 たま出版

『ホツマツタエ入門』鳥居礼著 東興書院

『「秀真伝」が明かす超古代の秘密』鳥居礼著 日本文芸社

『宇宙原理ホツマ』鳥居礼著 たま出版

『宇宙の秩序』桜沢如一著 日本C I協会

『無双原理・易』桜沢如一著 日本C I協会

『古事記と言霊』島田正路著 言霊の会

『言霊』島田正路著 言霊の会

『コトタマの話』島田正路著 言霊の会

『世界大百科辞典』平凡社

『古事記』日本古典文学大系 岩波書店

- 『日本書紀』日本古典文学大系 岩波書店
『言霊百神』小笠原孝次著 東洋館出版社
『神道の手引書』戸松慶議著 雄山閣
『「元気」の革命』石田英湾著 新泉社
『マクロビオティック健康法』久司御知夫著 日貿出版
『無双原理』大森英桜述 宇宙法則研究会編
友常貴仁「もう朝だぞ」 周興嗣「千字本」(三五館) 1998
ワタリウム美術館監修 高橋巖訳「ルドルフ シュタイナー黒板絵の世界」
(筑摩書房) 1998入手
マイク・ブース「オーラソーマ ヒーリング」大野百合子訳 (VOICE)
樋田和彦「癒しのしくみ」 O-ring法 (地湧社)1994
宮崎駿製作 アニメ映画「もののけ姫」
清泉芳巖「いろは碧巖：大衆禅」(こう盟社)1983
村木弘昌「医僧白隠の呼吸法 夜船閑話の健康法に学ぶ」(柏樹社) 1990
森岡正博「宗教なき時代を生きるために」(法蔵館) 1996
湯浅泰雄「宗教経験と身体」叢書現代の宗教 4 (岩波書店) 1997
山折哲夫「日本の神 3」神の顕現 (平凡社) 1996
山折哲夫「脳死体験の意味」神話とイマジネーション「岩波講座 宗教と
科学 7 死の科学と宗教」(岩波書店)1993
岩波講座「宗教と科学」別巻1「宗教と科学 基礎文献 日本篇」
(岩波書店) 1993
實川幹朗「共生の世界へ」いのちの不思議 「ケ」と「イ」 [宗教と精神
文化の未来に関する提言 助成論文より] (猿田彦神社フォーラム年報)
1998-1999
Juan MASIA「バイオエシックスと文化」上智大学生命科学研究所紀要
vol. 2, 1983
ホアン・マシア「続・バイオエシックスの話し」(南窓社)
まどか庸代「Life Science & Life Fantasy 言相と幻相」-日本人の身をも
つての生命論 と 出会うという認識論-南山短大紀要 vol. 24, 1997